寿で暮らす人々　６５

寿地区自治会結成の頃とその人々　その３

 発会式前夜

　昭和４３年４月の発会を目指して進むことになりました。みんなの腰が据わりました。皆に連絡を取れるのは夜間。がむしゃらに進むだけというのが当時の僕の思いでした。

食堂等の店主さん、簡易宿泊所（ドヤ）の管理人さん、土木建築や港湾の労働者、その

ほかは寿生活館や寿福祉センターの相談員というのが主なメンバーでした。寿ドヤ街に住み暮らす人たちの自前の、行政公認の組織を立ち上げることで、市民権を得て行政や各関係機関との対話や交渉も前進していくと期待されました。一方で、住民の多くを占める日雇労働者の労働や生活問題、1,000人を超す子どもたちや600人を超す女性（お母さんたち）の問題はどのように取り組めるか、手に余りある問題ではありました。

　商店主、管理人、労働者の立場の違いは話し合いの中でときに微妙に、時に激しくぶつかります。そんな緊張を内にはらみながら、発会式への準備が進んでいきました。

　そんな中、自治会発会の牽引者の何人かが準備会から退くという事態が起こりました。それぞれ生活が

かかっています。その大事な部分に大きな影響を与えかねない事態が生じたのだろうと察せられました。

しかし、それを押しのけてもやってほしいと当時の僕は思いました。いま思えば、当時本人はどのような

気持ちでそれを受け止めたのかと思うとそのつらさ、口惜しさが少しはわかる気がしています。労働者も

手配師から仕事を回せなくなるといわれて参加しなくなった人もいました。人口は多くとも狭い地域です。

寿に住んではいない僕には見通せない人間関係の広がりがあるのでしょう。みんなに動揺が広がりました

が、あとには引けないよな、というのがみんなの気持ちのようでした。離れた人たちも、目立たないよう

に活動を応援していましたし、関心を抱き続けていました。

　俺はやめる、そんなこと（決定）は聞いていない、あいつの発言は気に入らない等々誤

解や行き違いはよくあって、そのたびにその人の間を行ったり来たりしました。自治会を作ろうと集まった人で初対面の人も多かったのですから致し方ありません。僕は、誤解やトラブルの話は聞きましたが、お互い同士の間の調整について僕は立ち往生でした。前回に少しふれた寿生活館の相談員の谷川さんのそんな時の取り組み方には大変学ばせられました。谷川さんは、トラブルや誤解を聞いたり察知したりすると、そのままにはせず、必ずその日のうちに双方の話を聞き対応していました。そんな時は、僕に声をかけ必ず誘ってくれました。時間を惜しまず冷静に行動していました。その誠実でまた大胆な姿勢は忘れられないものです。活動の多くはそんな誤解や行き違いの連続でしたが、それが解消した後は、みんなの相互の理解が広がりました。人間関係の多くは、実はそういうことが普通なのではないかと思いました。また、そのことが人間関係にとってとても大事なことでもあるのだとも思うようになりました。

　年も明け、準備も風雲急を告げてきました。発会した後のスムーズな活動を進めるために、埋地七か町との関係調整や横浜市、中区役所との話し合いも自治会の活動を進める補助金を獲得する上で大切な交渉事でした。一般的な自治会・町内会では補助金のほかに、横浜市と神奈川県の広報を配布すると謝礼金（手数料）があります。これまで、毎月発行され一般の各家庭には自治会・町内会を通じ届いている「広報よこはま」、「県の便り」は、寿のごく一部にしか配布されていませんでした。ドヤに住んでいる人には届いていませんでした。広報を寿で配布することになると、少なくとも当時は、5,000所帯分必要でした。

　しかし横浜市、中区は、3,000部しか回せないといいます。広報は一所帯に一部ですから、広報の数は、行政が各町内会・自治会に支払う補助金の柱である「地域振興協力費」の基礎数です。補助額の増減に直接影響しますし、それはまた自治会の活動に影響するのでその意味からも受け入れることはできません。交渉の末、減少分については、地域環境整備費という名目で定額が補助されることになりました。というような具合に対外的な活動も並行して進められていきました。

　さて、発会まで1か月を残すのみとなりました。役員と役職の決定、活動予算、活動方針などの話し合いのほか、発会式のお知らせのチラシ、発会式の当日の進行プログラム、発会宣言の作成など準備しなくてはならないことは目白押し。もう臨戦態勢です。僕は2週間ほどドヤに泊ることになりました。当時の僕は、高ぶる気持ちを抑えきれずに親しい知り合いに「歴史に立ち会っているようだ」と手紙を書きました。そんな気持ちでした。

　発会式の一応の準備は整いました。明日を待つだけ。天気は良さそうです。

次回は、寿地区自治会結成の頃とその人々　その４

　　　　発会式とその後の活動